兵庫県立淡路医療センター
AMC NEWS くにうみ県病だより
〒656-0021
兵庫県洲本市塩屋1丁目1-137
TEL：0799-22-1200（代表）
http://www.awajimc.jp
VOL.48
令和5年
6月発行

特 集

手術支援ロボット da Vinci Si SURGICAL SYSTEM

地域医療連携部長 兼 診療部外科部長・消化器外科部長
大石　達郎
泌尿器科部長
小泉　文人
産婦人科医長
金山　智子

産婦人科医長　**金山　智子**

この度、2023年5月より手術支援ロボット「ダビンチSi」が当院に導入されることになりました。約2ヶ月間の準備期間を経て7月より泌尿器科、続いて婦人科　外科とロボット手術が開始されます。婦人科領域では2005年にアメリカで子宮全摘におけるダビンチの使用が承認されてから急速に普及し、日本でも2009年に国内でのロボット支援手術が可能になって以降、子宮良性疾患を適応とするロボット支援手術の実施が2018年より保険収載され国内でも導入が進んでいます。

ロボット支援手術は高画質3Dカメラで10−15倍の拡大視野での手術を行います。髪の毛をiphoneのコードくらいの太さで認識できる視覚的情報を得られるため、肉眼では見落とすような細かい血管を認識しながら手術を行うことができます。またロボット鉗子が人間の手の限界を超えた動きをすることができるため、細かい針穴に正確に糸を通したり手ブレをすることなく手術が可能です。

ロボット支援手術は傷も小さく出血も少ない低侵襲手術であり、社会復帰も早いなど利点も多い手術ではありますが、安全性や合併症の可能性については術前に担当医より十分に説明を受けてください。

また術式によっては他院での手術をご案内させていただくこともありますので、詳しくは担当医にお尋ねください。手術の方法についてもこれまで通りの開腹手術や腹腔鏡下手術も行っていきますので、それぞれの患者様にもっとも適した手術方法を選択できるように努めてまいります。

求人案内
医療スタッフ募集

- 診療放射線技師
- 管理栄養士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 精神保健福祉士
- 看護補助者（資格不要）

勤務条件、保険の取り扱い等、詳細はお気軽にお問い合わせください。
担当：総務部総務課（採用担当）

ご寄付について

医療機器の整備や施設・設備の充実、患者サービスの向上などを目的に、個人や団体からのご寄附を受け付けております。皆様のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

所得税法第78条第2項第1号及び法人税法第37条第3項第1号に規定する「国又は地方公共団体に対する寄附金」に該当しますので、確定申告に際し、控除等を受けることができます。

病院のホームページに「寄附申出書」（ワード）を掲載しています。

https://awajimc.jp/archives/5522　　担当：総務部総務課（寄附担当）

手術支援ロボット「ダビンチ」の導入

da Vinci Si SURGICAL SYSTEM

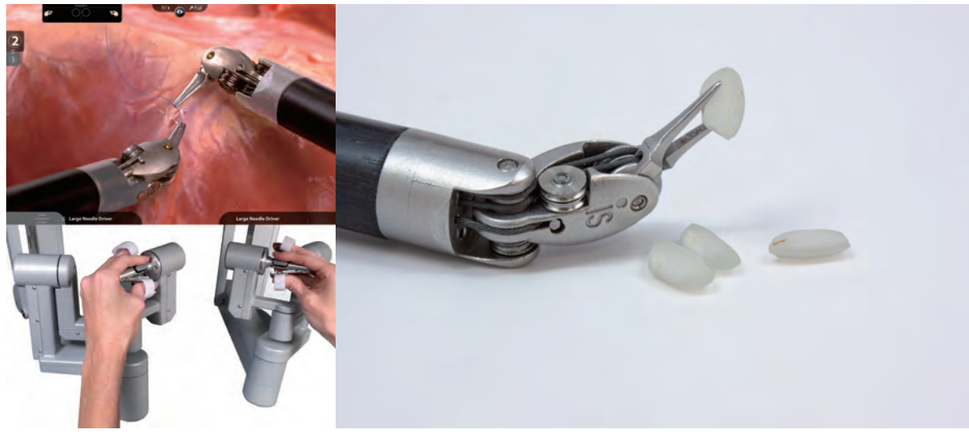
地域医療連携部長 兼 診療部外科部長・消化器外科部長　**大石　達郎**

当院では、患者さんにより高度で安全な医療を提供するため、2023年5月末に手術支援ロボット「ダビンチ」を導入しました。約1カ月の準備期間を経て7月初旬より、まず泌尿器科から、その後、産婦人科、消化器外科が順次ロボット支援手術を開始していく予定です。

手術支援ロボット「ダビンチ」は、外科医がロボットアームを操作し、内視鏡や鉗子を動かして手術を行う術式です。アームの可動域は人の手首をはるかに超え、また、カメラもロボットが担当するため、一切の手振れのない鮮明な3D拡大手術画像を見ながら手術が行えるため、従来の腹腔鏡下手術よりも容易かつ正確に手術部位にアプローチすることができます。実際、消化器外科の領域では、ロボット支援手術が腹腔鏡下手術よりも出血や合併症が少なく短期成績も優れているという比較試験の結果も報告されており、患者さんにとってメリットの大きい術式といえます。

また近い将来、手術支援ロボットによる遠隔手術（手術指導、手術支援）が行われることも予想されています。これは、離れた地域にいる外科医がロボットの遠隔操作機能を用いてリアルタイムに現地での手術の指導や手術の一部を担当し支援するシステムです。このことは手術手技のさらなる均てん化や、外科医の教育、人材確保にも貢献し、深刻な外科医不足になる可能性のある淡路島のような地方にとっては大変有意義なシステムです。

当面は安全を最優先に手術件数を制限しますが、徐々に適応を拡大していく方針です。もちろん、これまでどおりの開腹手術や腹腔鏡下手術も行っていきますので、個々の患者さんの病態に合わせて最適な手術方法を選択できるように努めてまいります。



da Vinci working group

総務部経理課長　**六車　弘年**

当院では、手術支援ロボット「ダビンチ」の運用に向け、2023年2月にロボット手術ワーキンググループを設置しました。

ワーキンググループの構成は、各診療科医師、麻酔科医師並びに手術室看護師、臨床工学技士、事務となっており、定期的な協議の中で「安全第一の手術を行う」という方針のもと準備を進めています。

7月の初症例に向けて、具体的なスケジュール確認、手術室の環境づくり、使用物品や管理方法の調整、医師や看護師の知識習得と手術介助手順等の確立などを行っています。

泌尿器科部長　**小泉　文人**

この度、手術支援ロボット「ダビンチSi」が当院に導入されることになりました。

ロボット支援下手術は2012年度より前立腺全摘で保険適応となり、2016年度より腎部分切除・2018年度よりは外科・婦人科領域などでも保険適応が拡大されました。現在では国内で約350台が稼働しています。

ロボット支援手術と言っても、AIなどロボットが考えて手術するわけではありません。技術認定医が操作して行います。術者は離れた場所（といっても同じ手術室内）のコンソールから術野の3D立体画像を見ながら4本のロボットアーム（うち1本はカメラアーム）を操作します。拡大された立体視野で術者の動きは従来の体腔鏡手術の鉗子にはなかった7つの関節により術野内で再現され、さらに手ぶれもなく、最適・任意の角度からの複雑で繊細な切開や縫合が可能になります。

ロボット支援手術は傷も小さく出血も少ない低侵襲手術ではありますが、危険性が全くない手術ではありません。ロボット手術の欠点として、鉗子に触覚がないことがあげられ、術者には慣れが必要です。また併存疾患や腹部手術歴によっては、ロボット支援下手術を受けることができない場合があります。各手術についての安全性・合併症の可能性については術前に担当医からよく説明を受けてください。また、術式によっては症例数の制約などから、他院でのロボット手術や従来の術式をご提案させていただきます。

費用については全て保険適応であり高額療養費制度が利用できるため、実際の窓口負担は従来の手術とほぼ同額です。

保険適応開始から10年以上経ちようやくといったところですが、これまで以上に地域医療に貢献させていただけるものと考えております。